

	長崎大学 保健系分野（看護学・医療技術学、学際・特定） 【看護学・医療技術学、国際保健学】
学部・研究科名	医学部保健学科（第1年次：106名、第3年次：14名） 医歯薬学総合研究科（M：68名、D：100名） 国際健康開発研究科（M：10名）
沿革・設置目的	<p>長崎県立長崎病院附属看護婦養成所を起源とし、長崎医科大学附属医院助産婦看護婦養成所、長崎大学医学部附属助産婦学校を経て、長崎大学医療技術短期大学部が設置された後、平成13年（2001年）、看護学に関する教育・研究を行うことを目的とした医学部保健学科が設置された。</p> <p>昭和24年（1949年） 長崎大学設置と同時に医学部設置 昭和59年（1984年） 長崎大学に医療技術短期大学部併設 平成13年（2001年） <u>医学部保健学科設置</u> 平成16年（2004年） 国立大学法人に移行 平成18年（2006年） 大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻（修士課程）設置 平成22年（2010年） 大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻リハビリテーション科学講座（博士課程）設置 平成24年（2012年） 大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻（修士課程）助産師養成コース設置</p> <p>地球規模で起こっている憂慮すべき保健医療問題に対処できる高度な知識と技能を有する実践的な人材を養成し、もって国際社会の健全な開発に資することを目的として国際健康開発研究科が設置された。</p> <p><u>平成20年（2008年） 国際健康開発研究科国際健康開発専攻を設置</u></p>
強みや特色などの役割	<p><看護学・医療技術学></p> <p>○ 長崎大学の理念等に基づき、リーダーとしての資質を備え、医療専門職や研究者として国際・地域社会に貢献する人材を育成する。大学院教育では、高度な臨床能力、研究能力、地域貢献能力を備えた高度専門職業人の育成を推進する。</p> <p>○ 医学科や薬学部、県内3大学との合同教育等により、在宅医療と福祉に重点化した教育を推進し、多職種協働に貢献できる人材を養成する。</p>

現職者を対象としたリカレント教育の推進によるキャリア継続支援と、高度な専門性や指導力を持つ人材養成を推進するとともに、地域の保健医療職の偏在解消、教員の確保をはじめとする地域の医療課題解決に積極的に貢献する。

- 長崎大学の持つ医学、工学、環境科学等の異分野融合や国内外の拠点を活かした研究や社会貢献等を積極的に推進し、看護学や理学療法学・作業療法学分野がインターフェースとなって、住民の健康問題解決や患者の生活への高度技術の導入を促進するなど、地域的・国際的課題解決に貢献する。

<国際保健学>

- 長崎大学の理念等に加え、国際保健に特化した国立大学唯一の研究科として、これまでの熱帯医学・国際保健に関する研究・教育実績、国際保健コミュニティの要望に基づき、開発途上国の保健医療問題の改善に貢献できる高度な専門性と実践能力を備えたグローバル人材・高度専門職業人を育成する。
- 独立研究科として、国際保健学を核とした学際的教育支援体制による分野横断型の講義や、開発途上国における短期研修と長期インターンシップによる実習で構成される実践的教育カリキュラムによる人材育成の取組を推進する。また、国際保健の基盤となる学問分野は幅広い学部に跨がるため、首都圏・関西圏における進学説明会をはじめとした種々の広報活動を行い、優れた資質と能力を有する人材を幅広く発掘するよう努める。
- 長崎大学が有する海外拠点を活かし、海外の関係機関との連携強化や社会のニーズに応える履修期間短縮コースの設置や首都圏での夜間開講、英語による授業科目の拡充等の取組により、国際保健の現場で活躍できる人材育成並びに国際保健における研究分野の進展を積極的に推進し、国際的課題解決に貢献する。